

8月4日(水) うだるような暑さ！35℃。

人生、まだまだ真っ盛りの農ふるさと協力隊のメンバー、棚田へ向う里道は我々の心を躍らせる。「おはようございます。毎日、暑いです。ね」等々、地域の方と会話も楽しみの一つ…。足取りは軽い。

奮闘記 9



背丈以上のススキに挑む！

田・畑は放棄されると1~2年目は一年草、3~4年目になるとススキなどの多年草が目立ち、やがて木が現れ林・森へと進んでいく。

畦は高山産の石英閃緑岩(花崗岩)と一部、土坡(どひ)で造られている。最上段から眺めると「Uの字」の棚田が10枚、その輪郭が見え、徐々に棚田本来の姿を取り戻し始めた。棚田を管理してこそわかる魅力と先人の苦勞と汗、見えないものが見えてくる。



石積みにした棚田

8月8日(日) 残暑お見舞い申し上げます。猛暑がつづく。

棚田の起原は？…今後の取り組みは？たまにはこんな話もいいものです。

この棚田の開発の歴史はいつ頃だろう！…茨木市・清溪村史にその歴史を遡ることができるかも知れない…。

日本の棚田の多くは過去に地すべり・土石流災害が起こり、その後、先人たちが耕作地として汗を流した歴史がある。時を経て受け継がれてきた棚田を保全しようと、仲間と汗をながしている。これはあくまでウォーミングアップ的な活動であり、目指すは地域・ボランティア、町民一帯型の取り組みへ…。

◇棚田の水源確保

「命の水」確保。棚田の最上段からチョロチョロ程度に流れている。これを貯水し確保すれば…何とか畑を養うことは可能である。鉛筆大の太さのホースを使いサイホン式で取水をしようと話が進む。取水→配管→通水。真夏の作業は重労働、麦わら帽子のつばから汗が滴り落ちる。棚田の番人たちは手際よい、飲み水でない為水質検査は無、通水完了後、容器に待望の水が溜まり出した。耕作し、植え付け後、初めての灌水である。



「Uの字」の棚田



最上段に水源有り



塩ビ管を使い容器に貯水する。



細いホースを使い、最下段の畑へ、容器に貯水する。

「棚田の番人、水もり」
ご苦勞さま



レモンイエローの
可憐な花

◇棚田に綿の花が咲く

シカの被害を免れた右近の綿(愛称)は元気に育ち、オクラの花に良く似た可愛い花が咲き出した。大きく上に育たない為に芯とめをし、わき芽を育てるのが、綿栽培の仕立て方。昨年、栽培し経験しているので失敗はない。綿は乾燥には強い。追肥はこれまで一回のみ。害虫被害はほとんど無いが、葉に巻き込む青虫が若干つく程度。栽培条件が悪い耕作地に適する。